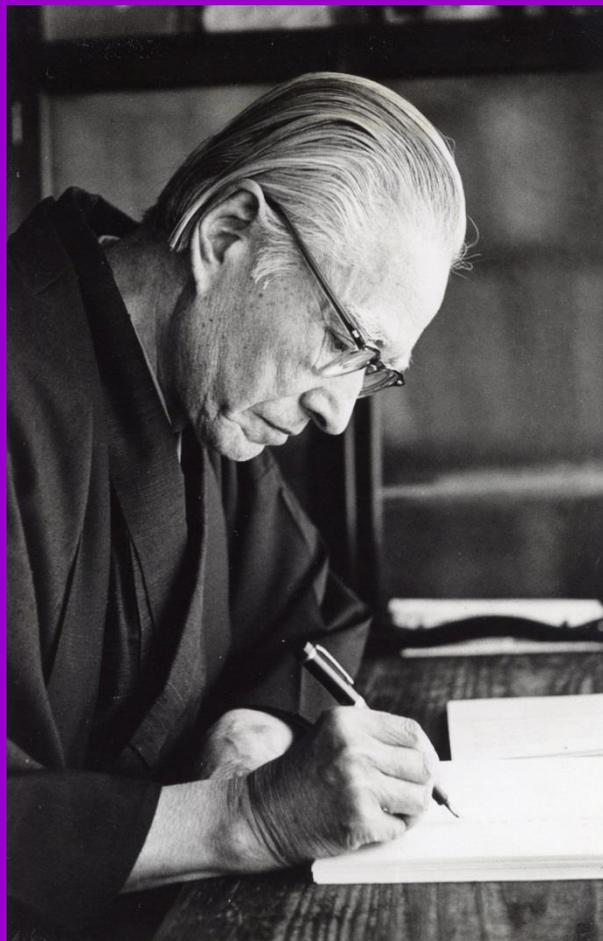


## 中勘助顕彰事業 文学講演会

こうして生まれた



物語は

～「銀の匙」と中勘助ゆかりの品～

日時 平成26年11月16日(日)  
午後1時～3時 (受付 午後0時30分～)

場所 藁科生涯学習センター 2階ホール

中さん愛用の品々(羽織、本など)を間近で見よう!

詳細は裏面をご覧ください

# 中勸助顕彰事業 文学講演会

## 物語はこうして生まれた

### ～「銀の匙」と中勸助ゆかりの品～



静岡市には中勸助ゆかりの品が多数寄贈されています。

本講演では、代表作「銀の匙」の中に登場する愛用の玩具や本類の実物を見ながら、代表作「銀の匙」が生まれるまでの中勸助の文学とその生き方を紹介します。

また、羽織や掛け軸など、勸助自身の愛用品や、参考にした書籍、書き込み入り原稿などを間近でご覧いただきます。

**日時** 平成26年11月16日(日) 午後1時～3時 (受付 午後0時30分～)

**会場** 薬科生涯学習センター 2階ホール  
住所：静岡市葵区羽鳥本町5-9 TEL：054-278-4141  
アクセス：しずてつジャストライン 薬科線「薬科学習センター」下車  
駐車場の数に限りがありますので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

**参加費** 無料 **対象** どなたでも(定員50名)

**講師** きうち ひでみ  
木内 英実 (東京都市大学准教授)  
日本女子大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期満期退学。  
日本大学国際関係学部勤務を経て、現在東京都市大学人間科学部准教授。  
静岡市に寄贈された中勸助関連資料の調査研究を行っている。



**申し込み方法** 平成26年10月22日(水)午前8時より静岡市コールセンター(054-200-4894)へ  
電話にてお申し込みください。(先着順)  
※静岡市生涯学習センターのホームページからお申込みいただけます。  
( <http://sgc.shizuokacity.jp/> )



## 中 勸助 (1885-1965)

小説「銀の匙」で知られる中勸助は、昭和18年、58歳の時に療養のため東京から旧服織村(現在の葵区新聞、羽鳥付近)へ移り、4年半を過ごしました。村の自然や村人とのふれあいはその後の作家活動に大きな影響を与え、帰京後も村人との交流は続きました。

静岡市は、勸助が住んだ旧前田邸を中勸助文学記念館として公開しています。

### <中勸助文学記念館>

入場料：無料 開館時間：午前10時～午後5時

休館日：月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日曜日を除く)、年末年始(12月26日～1月5日)

アクセス：〒421-1201 静岡市葵区新聞1089-120 TEL 054-277-2970

しずてつジャストライン 薬科線「見性寺前」下車2分

ホームページ [http://www.city.shizuoka.jp/deps/bunka/bunkazai\\_hogo\\_nakakan\\_index.htm](http://www.city.shizuoka.jp/deps/bunka/bunkazai_hogo_nakakan_index.htm)

主催：静岡市／静岡市薬科生涯学習センター

企画・制作・お問い合わせ： 公益財団法人  
静岡市文化振興財団 054-255-4746  
Shizuoka City Cultural Promotion Foundation